

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年12月28日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690200637		
法人名	株式会社 こふの希		
事業所名	こふの希		
所在地	富山県高岡市伏木矢田上町201-10		
自己評価作成日	2017.11.30	評価結果市町村受理日	平成30年1月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山市荒町2番21号		
訪問調査日	平成29年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所の理念である「笑って共に、楽しく生きる」に近づけるように支援を行っている。楽しいイベント、外出会の開催など、多くのレクリエーションを企画し、参加をしていただいている。祭りへの参加、小学生の慰問など、楽しい企画があれば、自然に笑顔が増える。利用者、スタッフともに楽しく生活を送りたいと心掛けている。また利用者の意志及び人格・人権の尊重に努めるとともに、個別の介護計画を作成し、利用者が必要とする適切なサービスを提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者一人ひとりを大切にされたケアに基づき、「笑って共に、楽しく生きる」をモットーに、利用者、家族ともに、安心して穏やかに生活している。地域との関わりが大切との思いで、公民館の文化祭や地蔵祭りなど、地区の行事には積極的に参加し、親しみを持って交流が図られている。また利用者の作品が賑やかに飾られたり共有フロアで、職員と共に手作りのおやつを楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

こふの希

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の行事に参加、見学を行っている。理念に近づくよう、イベント、レクリエーションを企画し、笑顔溢れる施設になるよう心掛けている。	利用者にとって「安らぎとくつろぎの空間」であって、笑い声が絶えない、明るい事業所にするよう取り組んでいる。利用者を人生の先輩として尊敬し、一人ひとりの幸せを大切に、今までの生活が継続できるようケアに努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館祭り、地蔵祭りなど、地域の行事に参加している。また、小学校の運動会を見学したり、ボランティア委員会の子供さんが慰問に来られるなど、交流を行っている。	利用者の今後の生活のために、地域との繋がりが大切であるとの思いから、地区の行事には積極的に参加している。また、小学校や幼稚園の子供たちの訪問を受けるなど、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校のボランティア委員会の活動の場として、当施設を利用している。地域の方へ、認知症の人の理解についての支援方法については、発信できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、自治会長、公民館館長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族の代表が集まり、運営推進会議を行っている。活動内容、サービス内容、事故報告等を行い、意見交換を行っている。	自治会長や公民館長、家族の方も参加して、定期的開催されている。事業所からはケアの様子や行事の報告などを行っており、委員からは公民館祭りで利用者の作品を出展されたらとの意見が出るなど、活発に意見交換されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは、密に連絡はとっていないが、地域包括支援センターの職員さんとは、運営推進会議を通じ、よりよいケアができるよう、協力関係を築いている。	運営推進会議の委員である地域包括支援センターの職員とは、認知症ケアの対応や健康維持のためのランニングマシンの利用について意見交換するなど、協力関係を築くよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて、全職員が理解し、取り組んでいる。徘徊のある利用者様には、見守りをし、本人の行動に寄り添っている。	身体拘束をしないケアについては、職員の入社時に説明しており、日常業務においても実践できているか都度確認している。防犯上、玄関は施錠されているが、利用者に出掛けるなど、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	周知徹底されている。声掛けや言葉遣いについても、職員間で気を付けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加するなどして、参加した職員は、権利擁護に関する制度をある程度理解できており、制度を活用した支援を勧められるが、他の職員は、権利擁護に関する制度についての理解が乏しいので、内部研修などで周知したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関して、利用者や家族に十分に説明をした上で、同意を得て、署名、捺印をいただいている。その際、疑問が無いかなど、確認を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの、意見、要望は、その都度職員で検討し、なるべく希望に沿うように心がけている。また、玄関に意見箱を設置しており、匿名での意見も受け付けている。	玄関のご意見箱への投稿はないが、家族が事業所に訪れたときや、連絡が必要になったときに、意見や要望を聞くように仕向けている。また、事業所の様子を載せた「こふの希だより」を毎月届けており、家族とコミュニケーションを図るよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なカンファレンスがあり、職員の意見や提案を聞く機会が設けられている。また、そのような機会だけでなく、直接意見を述べる職員もいるので、その都度、検討している。	日常業務において、職員が意見などを自由に述べるができる。また、カンファレンスで案件等は職員全員に共有されており、必要なものは運営に活かすよう検討されるなど、管理者との信頼関係は築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務シフトは、各職員の希望をできる限り取入れローテーションを組んでいる。家庭と仕事の両立、人間関係を含め、なるべく働きやすい環境になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を指示するのではなく、自ら自発的に参加できるよう、研修案内を掲示している。各自が目標をもって働けるよう職員のキャリアアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修に参加する事により、他事業所と交流する機会を持っている。また、グループ事業所の職員との交流もあり、さまざまな意見交換もできる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族の話を傾聴し、安心していただけるような関係作りに努めている。また、前ケアマネジャーからの情報やアセスメントも参考にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	環境が変わると、不安になるのは、誰でも同じ事である為、少しでも安心していただけるよう、好きな事、いつもどのようにして1日を過ごしてきたのか等聞き、会話をすることで、不安なく過ごしてもらえるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望を聞き、その人の立場にたって考え、まずどうすれば良いか検討するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活の場である上での関係の構築に努めている。おしぼりたたみ、洗濯物たたみ、もやしの芽とり、ジャガイモの皮むき等、家事など働く事に喜びを感じられる利用者さんには一緒に作業していただき支えあう関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態、変化など伝え、定期的に状況を報告し、本人を家族とともに支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	家族や友人がいつでも面会に来ていただけるように、面会時間、曜日などの制限は設けていない。外出や外泊の機会も設け支援している。	家族や友人の面会は自由であり、関係づくりに努めている。利用者の外泊も、家族の協力を得て行っており、利用者の馴染みの場所との関係が途切れないように支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席など、関係性に応じた距離間になるように努めている。職員は利用者1人1人を把握し、自然な関係ができるよう見守りを重視している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、これまでの関係性を大切にしている。相談があれば、いつでも応じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で、会話、表情、行動などから利用者の思いを聞いたり感じたりし、気づきは細かく職員間で共有し、意見を出し合っけてケアにいかしている。それぞれの趣味や嗜好に合うような物事を取り入れるようにしている。	日ごろから一人ひとりの表情や言葉に気を配り、気持ちを理解するよう努めている。難聴の利用者には、筆談や身振り手振りでコミュニケーションを図りながら、思いを汲み取っている。情報は職員間で共有し、ケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査や情報収集を行っている。本人や家族からも意向を探るなどで今までの生活が継続できるよう努めている。少しでも本人の立場になって考えて行動したい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の生活リズム、心身の状態を把握し細かい変化も気づけるよう注意して情報共有している。状況変化に応じた対応ができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者にとって、何が重要なかを職員間で、定期的にカンファレンスを行い、意見交換をし、現状にあった介護計画を作成している。家族にも要望を聞き、変更があればその都度見直している。	利用者に、笑顔あるその人らしい生活を送ってほしいとの思いで、関係者からの意見をもらい職員間で話し合い、本人主体の介護計画の作成に取り組んでいる。状態変化時や気づきがあれば、現状に即して見直しを図っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき、特変などは各個人記録に記入し、体調の変化などがあった時は、すぐに報告し、情報の共有を行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族にも協力してもらい、医療機関や専門職のアドバイスをうけながら連携を図り、その時々ニーズに合わせて対応できるように努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や公民館行事に積極的に参加し、地域との交流を深めている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する病院や入所前からのかかりつけ医に受診、訪問診療を受ける。受診時や、訪問診療時は利用者の状態を主治医に報告し、適切な医療を受けられるよう支援している。緊急時は職員付き添いのもと受診している。	入所前からのかかりつけ医を変更することなく、情報提供を行いながら、いつでも適切な医療を受けられるよう支援している。受診時には家族と連絡を図りながら、スムーズな対応に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化の気づきは、随時看護師に連絡、相談をし、助言を受けたり、処置をしてもらっている。必要に応じて受診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に、情報を提供している。入院中は、面会に行き、病院関係者から現在の状況の確認を行い、スムーズな退院に向けて、情報交換を行っている。日頃から、地域連携室の方と連絡を取り、良好な関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設では、看取りの経験はないが、重度化した利用者さんの家族とは、随時連絡を行っている。また主治医と相談、緊急時の連絡先は確認済である。終末期ケア、対応については早急に知識を深めていかなければならない。	入所時に看取りに対する事業所としての方針を説明し、また入院や重度化された場合にも、医療との連携が出来ることを説明し、家族に理解してもらうよう努めている。今後に向けて職員の終末期ケアに対する取り組みなど、意識を高めたいとの思いがある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、急変時や事故発生時に、即対応できるように努めている。しかし、全職員に実践力があるわけではないので、定期的に訓練、勉強会を行いたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を行っている。消防署の参加もあり、利用者も実際に訓練に参加している。夜間想定訓練も行った。今以上に危機意識をもって、訓練の方法や対応を学んでいきたい。	避難訓練は年2回実施しており、夜間を想定した訓練も行っている。また地域住民の協力を得るよう運営推進会議などで働きかけている。	避難してくる利用者の見守りを頼むなど、地域の協力を得ての避難訓練の実施が望まれ、また必要な備蓄品のリストを作成し、非常時に備えられることが期待される。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者への言葉遣いや態度に気を付けながら対応している。利用者の気持ちに沿った声掛けの方法、それぞれの人が心地よく感じるような言葉かけを行っている。	人生の先輩として人格を尊重し、一人ひとりへの言葉かけに職員間で注意し合っている。大声を出される利用者には、状況を把握し本人の戸惑いや思いを受け止め、落ち着く時間を持つなど、プライドを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状態に合わせて、気持ちに耳を傾け、分かりやすい言葉かけや、選択肢のある声掛けをし、自己決定しやすい（希望が表しやすい）ように、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、個々の生活ペースを大切にしている。意欲低下のみられる利用者には、気持ちに寄り添いながらゆっくり過ごしていただくようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者と一緒に服を選んだり、好きな服装で過ごしていただいている。おしゃれを尊重している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備（材料の下ごしらえ、盛り付け）、片付け（テーブル拭き、食器洗い）など、個々の力や役割に合わせて、できる事をしていただいている。	カレーが嫌いな利用者にはシチューやハヤシライスなどに変更するなど、好みに合わせた温かい食事が提供されている。介助の必要な方には、一口ずつ声かけしてゆっくり時間をかけて支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、食事形態など個々の状態に合わせて対応している。特に塩分制限のある方には、味噌汁を薄めに提供したり、食材によって体調に変化がでる人には、別の物を提供するなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々にあった口腔ケアを行い、自力で困難な人には介助を行っている。口腔内の状態や義歯の状況を確認している。定期的に義歯の洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、必要な利用者には時間毎のトイレ誘導を行っている。職員に訴えかけるような視線を見逃さないよう心掛け、個々にあった対応に努めている。	トイレでの自立に向けた排泄支援に取り組み、失敗の少ないよう早めの声かけを行っている。時には安眠を優先し、オムツやパットを使用する方もいるが、その時々に応じて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状態を確認している。牛乳、お茶などの水分補給、毎朝の寒天ゼリーの提供、適度な運動を行うことによる便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回、入浴の曜日は決まっているが、本人の希望に柔軟に対応している。常に声掛け、談笑を行い、楽しく入浴していただけるように支援を行っている。	希望や体調を見て入浴を勧めており、ゆっくりとリラックスできるように図っている。リフトを使用する入浴では、安全性に注意し、安心できる支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、体調や状況により、自由に休息ができるように支援している。また、居室の温度など、本人が快適に過ごせるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりの薬の用法、用量が記入されており、いつでも職員が確認できるようになっている。また、服薬後は確認チェックを行い、服薬モレのないように努めている。処方内容の変更があった時は随時情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の記録、会話などから、本人の好きなこと、できる事をしていただいている。個々の生活歴や得意な事を把握して役割を持つことで、力を発揮でき楽しく生活できるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に配慮しながら職員とドライブや散歩、日光浴は日々行っている。外出会、ランチ会など利用者が楽しめるような企画を行っている。家族と外出し外食を楽しんだり、行きつけの美容院へ行くなど、楽しみを持った生活が送れるよう支援している。	お天気を見ては近所への散歩に出かけ、外の自然の空気に触れることを勧めている。また買い物希望者も多く、スーパーやドラッグストアにもお連れしている。近くの海岸線へのドライブに出かけたり、季節の花見を楽しんだり、利用者の笑顔が見られる外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が自己管理ができないため、お金をもっている方は数名のみ。その中でも、職員とともに外出し、買い物に出かけ、自分の財布から購入し、欲しい物を買う利用者もおられる。継続できるよう今後も支援していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持しておられる方も数名おり、自由に連絡されている。利用者宛てに施設に届いた手紙は、ご家族に連絡した上で、本人に渡している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアから廊下にかけては、季節に合った飾りを利用者と一緒に作成し飾っている。また、スタッフと利用者の写真を飾り、和気あいあいと明るい雰囲気作りに努めている。加湿器を設置、室内温度も常に確認してる。季節の花を飾り、「この花の名前わかる？」など会話につなげることができる。	玄関やリビングなどの共有フロアには、利用者手作りのクリスマスの飾り付けがなされ、明るく賑やかさが感じられる。利用者はソファでくつろぎながら会話を楽しんだり、テーブルで新聞を読んだりぬり絵をしたり、普段の生活を送っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブルは、気の合った利用者同士で座っており、新聞をみたり、塗り絵をしたり、食事をされる。テレビ近くには、ゆったりとしたソファがあり、好きなように座ってくつろいでいただいている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や思い出の物、自宅で使用していた物や、大切にしている置物を置き、できるだけ自宅に近い環境で過ごしてもらえよう、また心地よく過ごせるようにしている。	居室に設置してあるチェストタンスの上には、家族写真や利用者本人の結婚写真を飾るなど、思い出の品々を持ち込み、落ち着いて過ごせる居室となるよう、家族と共に取り組んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険の無いよう、不要な物は取り除き安全に生活できるようにしている。トイレの場所を示す大きな矢印をつけたり、部屋が分かりにくい方には、居室前に大きく名前を貼るなどしている。			

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 こふの希

作成日 平成 30年 1月 4日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策として、避難訓練は年に2回行っているが、地域の方を交えての訓練は行われていない。また、災害時に必要な備蓄を行っていない。	地域の方を交えての避難訓練を行う。災害時に必要な備蓄リストを作成し、備える。	災害時に協力していただけるよう良好な関係を構築する。次回避難訓練時に、地域の方に参加を依頼する。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

こふの希